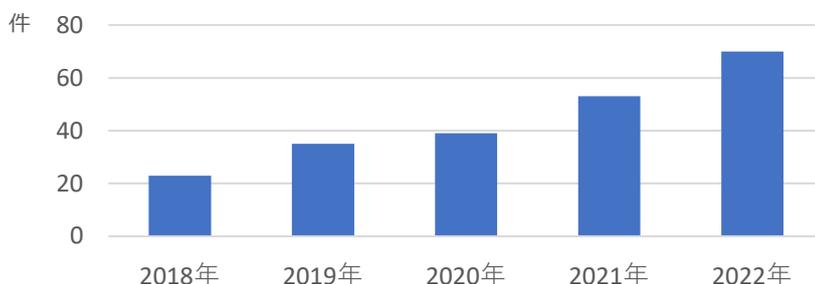


コンタクトレンズケア用品を正しく使用しましょう！



中毒110番では、コンタクトレンズケア用品の使い方を間違えたという相談が増加しています。コンタクトレンズケア用品は、毎日使用する洗浄・すすぎ・消毒・保存液や、週1回～月1回程度使用する蛋白除去剤などがあり、またハードコンタクトレンズ用・ソフトコンタクトレンズ用の製品に分かれています。種類が色々あり、製品によって成分や使用方法が異なるので注意が必要です。

コンタクトレンズケア用品の誤使用に関する相談件数（2018～2022年、n=220）



次のような相談があります。（製品ごとに注意点があるので、自分が使う製品の説明書やホームページなども、ぜひ確認してみてください。）

相談例① レンズのすすぎ忘れ

「初めて購入した洗浄保存液で説明書をよく確認せず、洗浄保存液に保存したコンタクトレンズを水道水ですすがずに装着した。本来は、レンズに付いた液をすすぐ必要があった。」

- ▶ 洗浄液や洗浄保存液によっては眼を刺激する成分が入っており、すすがずにレンズを装着すると眼に痛みなどを生じる可能性があります。

【注意するポイント】

洗浄・保存後に、レンズをすすぐ必要のある製品とすすがずに装着できる製品があります。初めて使う場合や家族や知人から借りた場合など、いつもと違う製品を使う際は必ず使用方法を確認しましょう。

相談例② 製品の取り間違い

「装着液をレンズに垂らそうとして、間違えて隣にあった洗浄液をレンズに垂らした。そのまま眼に装着したところ、痛みを感じた。」

【注意するポイント】

メガネやコンタクトレンズを外した状態では、見間違い、取り間違いがより起こりやすくなります。使用する製品をしっかりと確認してから使いましょう。

相談例③ 中和を忘れた（過酸化水素含有の消毒剤）

「本来は消毒液に中和剤のタブレットを入れ、その中にコンタクトレンズを入れて消毒するはずが、中和剤を入れ忘れた。レンズ装着時に眼に痛みを感じ、中和を忘れたことに気づいた。」

- 過酸化水素含有の消毒剤は、中和を行う必要があります。過酸化水素は眼に強い刺激があるため、中和をしない状態で眼に入ると、眼の痛みなどを生じる可能性があります。

【注意するポイント】

中和を行う製品には、中和剤を投入するタイプ、専用のレンズ保存容器に中和ディスクが内蔵されたタイプなどがあり、製品によって中和方法が異なります。説明書をよく読み、中和の手順を守るように注意しましょう。

相談例④ 中和剤・消毒中和剤の誤飲

「服用中の薬と、コンタクトレンズ用の中和剤を同じ場所に保管していた。薬を飲もうとして、間違えて中和剤を服用した。」

- 中和剤や消毒中和剤は、包装容器の見た目が薬と似ているためか、薬と間違えて服用する事故が多く発生しています。



【注意するポイント】

保管場所を分け、薬と取り間違えないようにしましょう。

洗浄液、洗浄保存液、消毒液などが誤って眼に入った場合は、レンズを外して弱い流れの水で眼をよく洗い、眼を洗った後も痛みや充血などが続く場合は、医師に相談してください。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■大阪中毒110番 072-727-2499 ■つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。